

嗜みとしてのギャンブル  
－ 競馬を「趣味」とする女性の体験世界 －

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
家族機能・社会臨床クラスター  
野口 有里恵

本研究では、競馬を趣味として行っている女性がどのように競馬を楽しんでいるのか、その体験世界を探ることを目的とする。

女性の競馬愛好者3名に、同じく競馬愛好者である筆者が半構造化インタビューを行った。また、本研究をライフストーリー研究と位置付け、逐語録から、筆者と研究協力者が共同で織りなす「ストーリー」を再構成し、分析を行った。

その結果、競馬が好きな女性が多様な形で競馬を趣味として楽しんでいることが明らかになった。ギャンブルとしてお金を儲けることだけでなく競馬における細かな「プロセス」を楽しんだり、競走馬の「活躍祈願」として、そして「自己決定への一票」として勝ち馬投票券の購入を行うことがあることが明らかになった。また競馬を一緒に行う「仲間」の存在も、競馬を楽しむ原動力となる一方で、独特なコミュニケーションの様式が存在する等、その複雑さも明らかになった。また、男性の競馬愛好者と女性の競馬愛好者の間に、競馬に対する認識の違いが存在する場合があることが示唆された。

本研究から、女性たちが「趣味」として実に多様な形で競馬を楽しんでいることが明らかになり、競馬という文化の、新たな担い手としての女性の姿が見いだされた。